

平成 19 年 3 月 17 日

殿

## 家庭科教育の重要性についての意見書

日本家庭科教育学会会長 佐藤 文子

第 3 期中央教育審議会教育課程部会の審議の状況が公表されました。今後、第 4 期教育課程部会で教育課程の基準について、さらに具体的な検討が進められるにあたり、今日の多くの教育問題の解決に貢献できる家庭科が、今こそ小・中・高等学校において重視されなければならないことを強く主張致します。

学校教育において、家庭科が重要な教科である理由は、次のとおりです。

1. 家庭科は「生きる力」を育てる教科であること。
2. 家庭科は生きる上で欠かすことのできない衣食住、家族、保育、消費、環境について学ぶ教科であり、「生きる力」を具体化した「人間力」の基盤となる教科であり、審議経過報告で検討された自己理解、自己責任、意思決定、将来設計、人間関係、知識・技術活用、課題発見・解決などの能力を育てている教科であること。
3. 家庭科の教育内容は、生命を尊重する態度の育成、体験活動、環境教育、伝統文化に関する教育、と大きく関連していること。

今後の教育内容の改善においては、審議の状況にまとめられている次の点を是非とも尊重し、家庭科の一層の充実が行われるよう要望します。

1. 社会的な自立の基礎を培い、家庭のあり方や家族の人間関係などへの理解を深める教育
2. 子育ての大切さや親の役割についての教育
3. 生涯を見通した人間の生き方と生活設計の教育の充実
4. わが国の衣食住の伝統文化を受け止め、それを継承・発展するための教育の充実
5. 生活の根本にある食を見直しその意義を知るための食育（食物、健康、調理、食事、購入、環境問題など、食に関する総合的な教育）の充実

また、本学会における高等学校生徒の全国調査（平成 18 年）から、家庭科は「生きていくために重要」、「実生活に役立つ」、「子育ての意義と親の役割の理解が深まった」等の有効性が評価されています。（資料参照）

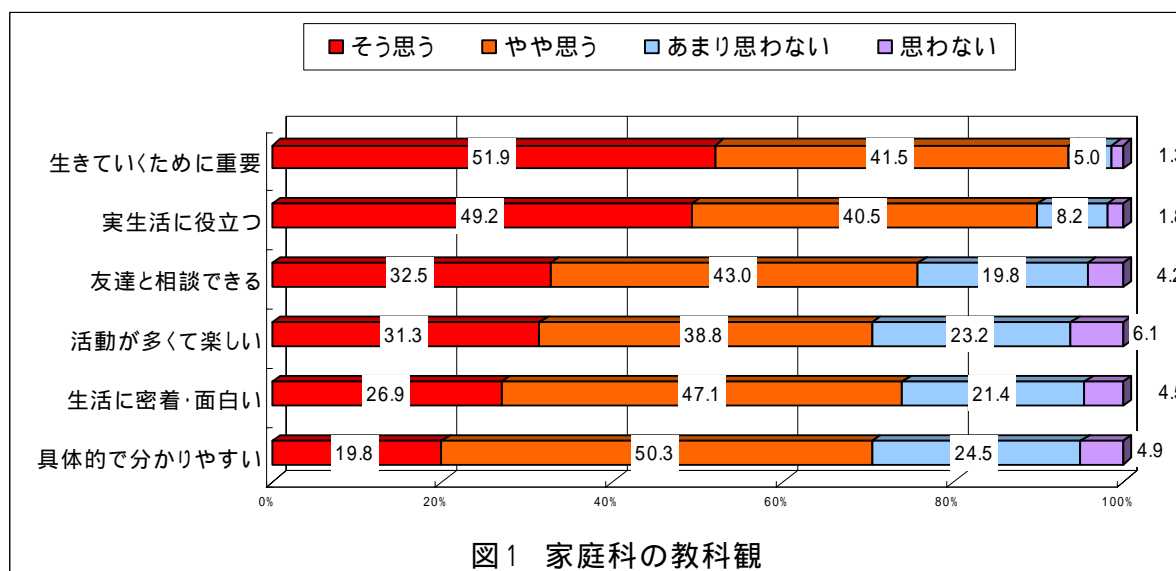
以上のような家庭科教育の重要性から、小学校、中学校、高等学校において、家庭科を児童・生徒への必修教科としてこれまで以上に充実していただきますように以下のことを要望します。

1. 小学校における各学年年間 70 時間の授業時数の確保
2. 中学校の技術・家庭科における全学年各 70 時間の授業時数の確保
3. 高等学校のすべての生徒における 4 単位必修の確保

## 【資料】家庭科必履修の学習効果について一高等学校生徒の全国調査（平成 18 年）

本学会が、平成 18 年 9 月～10 月全国 9 地区の国公立 45 校の高校生 1863 名を対象に実施した調査結果から、高校生は家庭科を重要な学習であるととらえています。

(1) 家庭科の学習を「生きていくために重要」、「実生活に役立つ」、「友達と相談できる」、「生活に密着・面白い」と認めている（図 1）。



(2) 家庭科を学習した後、「子どもがかわいいと思うようになった」、「子育ての意義と親の役割の理解が深まった」、「子どもは大人が守るべき存在」、「生命の尊厳について理解が深まった」、「家庭は男女が協力して営むもの」、「将来の生き方や進路を積極的に考えるようになった」などの点で、ものの見方や考え方が変容した（図 2）。

